

■今月の特選句

2012年9月号

見上ぐれば口の開くなり天の川

有富洋二

「可笑しい」とは何だろうを考えさせてくれる句。無意識に口を開けてしまっている自身を笑って可笑しい。これは、目薬さすときも同じだね。

カラオケのマイク争奪敬老日

伊地知寛

滑稽は人間の「業」を暴いてみせることも。高齢になると、紳士淑女をやめてしまう傾向がありますね。だから争奪戦になる。

雨上がり水増しと言ふ大西瓜

柳 紅生

人生は運不運の繰り返しですね。水っぽい西瓜に遭遇したのは不運。だけどそれが一句になったのは幸運。

細縞の水着を着れば太縞に

田村米生

意外性は滑稽の条件です。太縞の水着を着たら細縞になることも。例えば、小錦の水着を着たら痩せて見えかもね。

切手ほどの水着を着けて泳ぐかな

井口夏子

有馬朗人さんの句に、「初夏に開く郵便切手ほどの窓」があるが「水着」の方がいい。泳いでるうちに剥がれるだろうからね。

長命を嘆いてみせし生身魂

飯塚ひろし

長寿も幸福とばかりは言えぬこともある。嘆いたのは、本音かも知れぬぞ。親不孝の子に育てたのだから。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

流れ星見てから探す願い事

村上美和

・・・次に流れる星に間にあう

夏の草男女の尻に敷かれをり

松尾軍治

・・・こじれ話にむしられる草

究極は禪ひとつクールビズ

森 要

・・・はみ出さぬようご注意下さい

蚊の独語耳を澄まして聞いてやる

原田 曄

・・・ご褒美として吸わせてあげる

生身魂処嫌はずしゃしゃり出て

永島董玉

・・・嫌がられていることも知らずに

そのへんのおつさんになるクールビズ

小林英昭

・・・今日から旅の恥のかき捨て

暑がりの友へタオルを棺の中

加藤 賢

・・・缶のビールが欲しかったも

熱帯夜ベッドの海に溺れみて

百千草

・・・天井の節が夜空の星と

物問へば尻尾で応ふ金魚かな

蔦 恵

・・・答えはいつもイヤイヤばかり

噴水を描く子を覗く子を描く

山本 賜

・・・その人をまた誰かが描けば

混浴の堂々足湯涼新た

・・・足湯にぬるき恋の生るる

八洲忙閑

かなかなのなかなかなかぬ夕べかな

・・・その蝸の俳人嘆く

西をさむ

香水の中に紛れし加齢臭

・・・「きれいどころ」にちやほやされて

白井道義

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | 夏期賞与貧乏神いて長居せず
職退きし夫にストレス髪洗う | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 貪れる惰眠を破る日雷 | |
| | 休日の鰻は今年無理となり | 青山桂一 |
| 【佳作】 | 詠みたくても把へどころのなき海月
逝く夏や富士銀座には山ガール | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| | あれこれとなまくらきめるあつさかな
熱闘熱灼なでしこジャパン
子供の眼取り戻す刻花火かな | 秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 声高にスターの噂安香水
良き夢の素通りしさう籠枕
口角の泡も混じりてビアガーデン | 麻生やよひ
麻生やよひ
麻生やよひ |
| | ラブリーな話持ち寄る敬老日
負けるもんか負けるもんかと蕎麦の花
小望月エロスも少し足してみる | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 母食べる父は転がる運動会
翺雲海に下りても溺れない | 有富洋二
有富洋二 |
| | 隠しごととしてゐるやうなサングラス
のうぜん花そんなに咲いてどうするの | 有吉堅二
有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | 金槌の神主仕切る海開き | |
| | 白と黒国境線の水着跡
車窓から足を投げ出し月見かな
カマキリや夕日に向かって手招きし | 栗倉健二
栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | 爛しゃく爺に是非着せたいな甚平を
とても無理でも特選句探す夏バテ我が句
マスク取れば「絶世」も取れ汗美人 | 安藤淑子
安藤淑子
安藤淑子 |
| | ブランドの濡らしてならぬ水着かな
宅急便糸瓜の尻に触れて来る | 飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 巻き戻し出来ぬぜんまい蟬時雨 | 井口夏子 |

	返信の言葉遊びや暑いです	井口夏子
【佳作】	死神が隣りにどうぞと優先席 雀百まで踊りの果てのぎっくり腰	池田亮二 池田亮二
	金銀銅次々消さる夜学の灯 南置く力自慢の西瓜割り	石川節子 石川節子
【佳作】	桃すする母の乳房の記憶なく 人声のすぐ風となる青田かな 老人に血圧薬明易し	板倉肱泉 板倉肱泉 板倉肱泉
【佳作】	虫辞典のやうな歳時記九月来る エンディングノート書き終え蛇穴に	伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	迫り上がる不知火型や土用入 蟻にとっては大洪水の散水車 俄か雨イベントの打ち水止められず	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	俄雨天道虫が来て止まる もう笑ふしかなく今日の暑さかな 大いなる魚を逃がして夜釣かな	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	丑の日やうなぎのぼりの蒲焼値 象鼻杯下戸はほろ酔い蓮見かな	井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	大木に集まってゐる油蟬 甚平着て心の軽くなりけり ぞろぞろと蚯蚓でてくる暑さかな	今城夏枝 今城夏枝 今城夏枝
【佳作】	節電に妻の雷使いたし 蚊の声に思わず友の頬叩く 夏痩せの骨と皮なる天空樹	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	遊俳は天下御免の夏禪 素裸で投資話の電話聞く 灼熱の地に腹擦り犬の行く	宇井偉郎 宇井偉郎 宇井偉郎
【佳作】	手つかずの書減る気配なし夏の夜 節電などふつ飛ばしたる劫暑かな 大舞台鳴らしつつ来る風鈴屋	宇佐美徹郎 宇佐美徹郎 宇佐美徹郎

	名月や新国劇の赤城山 月に吠ゆ DOG は GOD 宮の森	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	蓑虫に内緒話を聞かれたり	
	簾して人のこころを透かし見る 糖尿病を忘れてみたる夏競馬	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	座り胼胝母親に似る浴衣かな	
	扇風機に宇宙人だと言う男の子 川面へと度胸試しや夏の声	大関のどか 大関のどか 大関のどか
【佳作】	金太郎飴笑い崩れて土用明け	
	扇風機に宇宙人だと言う男の子 川面へと度胸試しや夏の声	大関のどか 大関のどか 大関のどか
【佳作】	甚平に八十路の執念ひた隠す 黒南風に卒塔婆かたこと誰を呼ぶ 門火焚くいづれが馬か茄子きうり	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
	白南風に青く波うつシースルー どち踏みし蠅取蜘蛛の澄まし顔	笠 政人 笠 政人 笠 政人
【佳作】	香水に辟易したる昇降機	
	いく度も観るロンドン五輪の内村の技 満月の空に輝きオスプレイ おんまくに下車せず特急列車の吾	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	嫁よりも魂消ごきぶり遁走す 子鴉もみて明方の繁華街	加藤 賢 加藤 賢
	石鎚の神様登る山開き ニュートン落ちれば唯の青りんご	門屋 定 門屋 定 門屋 定
【佳作】	青田中彼方に休耕田有り	
	炎昼や毛皮の中で耐へる犬 鰻屋の臭ひ搔き出す扇風機 向日葵の明る過ぎたる胡散かな	金澤 健 金澤 健 金澤 健
【佳作】	無惨やな蜂を食はすと言ふ苛め 梅雨茸を見れば蹴散らす性を持つ 老鶯の小節朗朗谷渡り	川島智子 川島智子 川島智子
	夏休み隣の家は体育館 ライバルの火花を散らす揚花火	久我正明 久我正明 久我正明
【佳作】	空蟬や背中を割って話し合ふ	

- 【佳作】 革靴もビニール靴も黴拭ふ
くちなはに女ふたふた通りけり
線引きの源氏螢の生息地
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
- 芋を掘るネズミの住家も掘り起こし
蝉時雨体感温度急上昇
黒田忠一
黒田忠一
- 胡麻かぞふひいふうみいとヒックスを
もう一人俺がいるぞと帰省子を
小杉 隆
小杉 隆
- 【佳作】 夕焼やたたきし尻は他人妻
小杉 隆
- 【佳作】 まつすぐですなほな胡瓜から嫁ぐ
ぼくらにもラムネ一本つけとくれ
小林英昭
小林英昭
- うるう年宇宙最大運動会
【佳作】 オリンピック四年に一度愛国心
ロンドンへ心一つにニッポンコール
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
- 青白き若き神主海開
我が一生蝉の一生いかにせん
酒井鹿洋
酒井鹿洋
- 【佳作】 柔道は剛道と化し桜散る
酒井鹿洋
- モンロー似の案山子頭に鴉止め
【佳作】 新涼や石松うなる蓄音機
旨い筈の妻避け雌蚊われに寄る
佐藤古城
佐藤古城
佐藤古城
- 潮祭総身を潮に祓はれて
【佳作】 馬追の声に追はれて夜の散歩
胡瓜柵苦瓜に占領されかける
佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子
- 夏の夜や奇談怪談夢うつつ
夏を食むメタボ特効畑の肉
柴田真一
柴田真一
- 【佳作】 国会中テレビに映る昼寝人
柴田真一
- 話また祭に戻し寄付を乞ふ
【佳作】 そらされし話は追はずソーダ水
逃げたきも中にはあらむ蟻の列
清水吞舟
清水吞舟
清水吞舟
- 胡麻をする手つきも板につきにけり
出来事の種蒔くごとく芥子を蒔く
下嶋四万歩
下嶋四万歩
- 【佳作】 秋深し隣の人はず知らず
下嶋四万歩

- | | | |
|------|---|----------------------|
| | 毛虫にも空舞ふ夢のありなしや | 壽命秀次 |
| 【佳作】 | ピーピーと妻を呼び行く冷蔵庫
微笑んで毛虫焼く妻観てしまふ | 壽命秀次
壽命秀次 |
| | パトカーにちょっと怯みしサングラス | 白井道義 |
| 【佳作】 | しばらくは入浴中の西瓜かな | 白井道義 |
| | 蟬が居ない夏人間だけが不満
ソーメンに葱いっぱい入れ兄弟会 | 鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 蜘蛛の巣に引っ掛かり私祖母です | 鈴木和枝 |
| | 台所ぼつりと灯り夏の夜
炎天に営利活動差が出ます
熱帯夜家に帰ると寝ています | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| | 柔肌を刺さねばならぬ蚊の使命 | 高田敏男 |
| 【佳作】 | この服は少し派手なり山粧う
水虫やプロレスラーの泣き所 | 高田敏男
高田敏男 |
| | 六甲の蒼におののく夏の朝
夏雲に飛び込んでいくボーイング | 高橋マキコ
高橋マキコ |
| 【佳作】 | オリンピック観戦で明け熱帯夜 | 高橋マキコ |
| | 一杯のビールのためのジム通い
炎熱に鴉の声も変りたる
夏草に乗っ取られたりグリーンカーテン | 高橋 都
高橋 都
高橋 都 |
| | 腹の色いかがと叩かれゐる西瓜 | 高橋素子 |
| 【佳作】 | 五月雨の傘に会釈をさせてゐる
月に連れ戻る昼は案内の影 | 高橋素子
高橋素子 |
| | メモを手に仏足石の夏休 | 武智かずを |
| 【佳作】 | 雲の峰瀬戸の島島圧したり
すべり台さかさに登り新松子 | 武智かずを
武智かずを |
| | 添ひ寝せしドラエモンをり昼寝覚
赤のまま幼なじみの仲直り
祖父かつぐ七夕竹のわさわさと | 田中章子
田中章子
田中章子 |
| 【佳作】 | えんてんのひやとひたちのみせきぼり
空蟬や我が天井の我観る | 田中 勇
田中 勇 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | 図書館や昼寝めあてを許すまじ | 田中 勇 |
| 【佳作】 | ブヨの一撃姓は丹下や名は左膳
イナバウワー師はかまきりと思ひをり
政党の大志はいつこねぢれ花 | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | いつしかに昔語りの夕涼み
何事も聴かぬふりして水中花 | 蔦恵
蔦恵 |
| 【佳作】 | 気があるかないかがわかる団扇風
炎天下帰れば嬉天下かな | 田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 鰻ではなくカツ丼や荷風の忌
逆上がり出来ず泣きにし敗戦忌
五アンペアで一人暮らしや生身魂 | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | 甘くなき名医打診の大西瓜
銀蜻蛉B 2 9のやうに飛ぶ | 永島董玉
永島董玉 |
| 【佳作】 | つくづくと筑紫恋しや法師蟬
病蛩悩み悔みを闇の中 | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | 原発へ馳せ参じたる海月かな
大盛を復唱されて冷やしそば | 原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | 脳細胞暑中休暇の休み癖
大暑なり反古紙ばかりが堆し
熱帯夜髪剪るごとく紙を切る | ひがし愛
ひがし愛
ひがし愛 |
| 【佳作】 | 三尺寝出来て初めて職人ぞ
高くとも食べた鰻よ効いとくれ
金魚玉あたかも宙の飛行船 | 彦阪義久
彦阪義久
彦阪義久 |
| 【佳作】 | 囃子方の尻を揃へて山車来る
山鉦のからくり螭螂見得を切る
かき氷二つ掲げて練り来る | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 | ビキニてふ勝負服なり女の子
梅雨明を待つてましたと物干竿
髪洗ふ煩惱詰りし頭垂れ | 日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子 |
| 【佳作】 | 大胆の羞恥に勝る水着かな | 広瀬雅幸 |

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| | 硬派ゆえ人知れず食う心太
追うことの無上に楽し補虫網 | 広瀬雅幸
広瀬雅幸 |
| | 朝の日へすすめすすめの牽牛花
十戒や多酢少糖の盆の僧 | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | 日焼けせしひと皮剥きの誇示の腕 | |
| 【佳作】 | 冷奴三度の飯の友となる
われこそは納涼野郎第一号
カロチンもリコピンも夏野菜から | 藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉 |
| | とんぼうと郊外電車に乗り合はす
アーケードの喧騒覗き盆の月 | 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 炎暑なり人も草木も午睡てふ | |
| | 最初から仮装の顔よ盆踊り | 前 九疑 |
| 【佳作】 | 逆まわりして見定める盆踊り
休憩のアイス目当ての盆踊り | 前 九疑
前 九疑 |
| 【佳作】 | 一つでも（十）トマトと唄い買いにけり
へソのカビほじくる指の臭さかな | 松尾軍治
松尾軍治 |
| 【佳作】 | ゴリ押しの欠陥へりに梅雨逃げる
ごきぶりの外出控ふ劫暑かな
貧も苦もひととき忘る歐の夏 | 丸山絃一
丸山絃一
丸山絃一 |
| 【佳作】 | 耳たぶを思ひきり吸ひ満腹蚊
吐く息の荒くなりしや残る夏
夏風邪に横臥も大儀句作もや | 三塚不二
三塚不二
三塚不二 |
| | 籐椅子に老いらくの恋揺らしいる | 三橋百笑 |
| 【佳作】 | 万緑に吸い込まれて溺れてる
額紫陽花泣いてるやうに花零す | 三橋百笑
三橋百笑 |
| | つんつんと長け尺余の松の蕊
夏の鯉はねて投げ餌に來たりけり | 宮森 輝
宮森 輝 |
| 【佳作】 | アイスクリーム恋人岬でなめにけり | 宮森 輝 |
| 【佳作】 | 耳元にシャネルの5番同窓会
夏萩の先踏まぬよう踏まぬよう | 村上美和
村上美和 |
| | 曲折もたまにはいいさ胡瓜垂る | 百千草 |

- 【佳作】 蝮酒四角いこの世丸く生き 百千草
- もろこしの奇数偶数口にいる
砥部焼きの日焼けをながむ窯街道
森岡香代子
森岡香代子
- 【佳作】 デパートをぐるぐる巡る夏吟行 森岡香代子
- 風が無く蝉が鳴く暑さにも吟く
森 要
- 【佳作】 風鈴で懐かし昭和音連れる 森 要
- いろいろを中途半端に夏果てる
立秋の逆立ちをして秋立ちぬ
八木 健
八木 健
- 【佳作】 踊の輪ほどけ浴衣も同様に 八木 健
- 【佳作】 雲の峰真ん中を通る中央線
腹立つは犬の糞なれ牛がへる
八洲忙閑
八洲忙閑
- 【佳作】 おさがりのDNAの運動会
腹の底明け透けなりし竹夫人
柳 紅生
柳 紅生
- 【佳作】 不祥事の多きこの夏高学歴
電子蝶とびつく子猫破壊力
認知杖振り廻す青天上
柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子
- 台風の怠風多島美尊びて
夜泣きして汗疹となりぬ夢しづく
山下正純
山下正純
山下正純
- 【佳作】 鼻水を流して元気汗疹の子 山下正純
- リハビリの包丁仕事梅雨明ける
今日もまた新しい花日草
山本けい子
山本けい子
- 【佳作】 蜘蛛の囿の主はメタボ吾をにらみ 山本けい子
- 【佳作】 冷房のきいてる筈の美容室
ひあふぎや朝からみんな出払つて
山本 賜
山本 賜
- 【佳作】 スカートといへぬぎりぎり夏旺ん
教室の眠気を醒ます鬼やんま
節電のエスカレーター玉の汗
横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎
- 【佳作】 この朝の蝉泣きわめく原爆忌
浴衣着て娘すつかり大人びし
迷ひ来し蛍も泊まる避暑の宿
渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを